

議論

学んだ知見

特にF1の見学を通して得た知見

- 核セキュリティ
- 安全面への説明責任
- 安全への努力

核セキュリティ

- F1では3重の検問
- 稼働中の原発では5重
- テロを防止

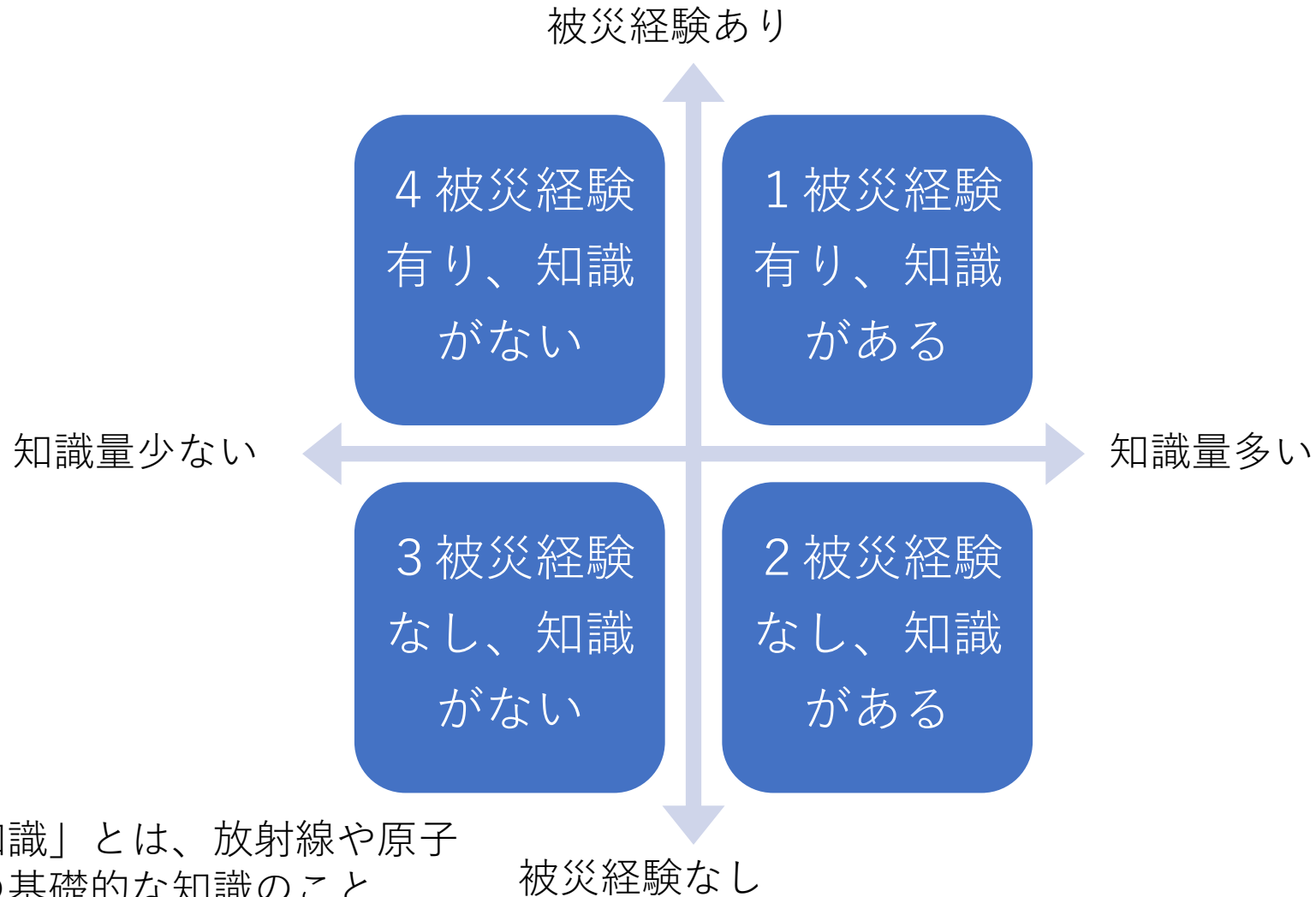
安全面への説明責任 風評被害を起こさないために

- F1内での空間線量を表示
- ALPS処理水を放出することの安全性を説明養殖する（例）ヒラメやアワビの養殖
- 個人線量計を身につけた視察

事故を再び起こさないための努力

- 防潮堤
- 活断層の有無を調べる
- 改善した点が市民に伝わっていない？

伝える対象



1 被災経験有り、知識が多い人の特徴

- 具体例：当時福島大学にいた研究者、双葉町の医者
- 情報次第で正しい判断ができる
- 例として、原発事故後に医者はすぐに福島から逃げたが、情報がで始めると戻ってきた。
- 東電への不信感があるかもしれない
- 不正確な情報を疑うことができる

2 被災経験なし、知識が多い人の特徴

- 具体例：大阪大学の研究者、大阪府の大病院の医者
- 関心がないかもしれない
- ニュースで扱われる処理水にしか興味がない
- 他国の原発と比較できる

3 被災経験なし、知識が少ない人の特徴

- 具体例：大阪の小学生、主婦、高齢者
- 関心がないからこそ、新たな知見を受け入れやすい
- BqやSvなど単位がわからないから混同してしまう
- 危険度の判断ができないから不安だけが膨らむ
- 放射線の悪影響に過敏

4 被災経験有り、知識が少ない人の特徴

- 具体例：当時福島で暮らしていた小学生、主婦、高齢者
- 安全性を説明されても安心できないかもしれない
- 理論、理屈よりも経験談、感情論に説得力を感じるかもしれない
- 放射線が怖くて福島に戻りたいとは思わない

今回の知見を最も伝えるべきなのは誰か？

- 1 →自分で判断できる
- 2 →被災者の経験の感情に共感しづらい
- 3 →誤った知識に流されやすく、被災者の経験の感情論に共感しづらい
- 4 →漠然とした不安を感じる

従って4（被災経験有り、知識が少ない人）
に伝えなくてはならない

安心を伝えるためには？

- 安心を共有する
- どんな人から？ → 東電で働く人、戻ってきて生活する人、移住した人
- 人が住めている、福島産の食べ物を食べて生活している事実を伝える